
平成 31 年度 (令和元年)

事業報告書

社会福祉法人育美会

貴精保育園

平成 31 年 度 (令和元年) 事 業 報 告

貴 精 保 育 園

ひとりひとりの思いを大切に考え対応していく保育を行いました。
行事等で花の人の家の入居者の方との交流を持ち優しい心を育てていくという事を心がけました。

処遇について

ひとりひとりの思いを大切に保育をより実践していくため、子ども達がのびのびと生活できるように皆で協力して保育を行いました。

発達が気になる子に対しては、研修に参加するなどして専門的なスキルを身に付けた障害児担当保育士を配置し対応しました。

今年度も川越市や特別支援学校から巡回指導に来てもらい、関わり方を学びました。また、職員皆で共通の認識を持って対応できるように、研修に参加し職員会議などで情報交換、話し合いを行う機会を多く設けました。

問題を抱えている家庭に対しては担任だけでなく場合によっては園長や主任が話を聞いたり行政に相談しながら対応しました。

老人ホームとの併設園であることは、お年寄りとの自然な交流を育み、情緒豊かな子どもの育成に役立っています。多くの行事を通じて交流ができるよう心がけました。

むさしの保育園とは年長児中心に行事に参加するなど園児同士の交流を行いました。

具体的な保育内容は年間の保育計画、行事計画に基づき、月案、週案を作成して実践してきました。

給食では、子ども達はホールから厨房の中を見て、遊んでいる時も厨房職員とコミュニケーションをとったり、食に興味を持つ子が増え食育にも役立っているように感じます。

主に年長児ですが、食育担当保育士が計画を立て、園庭で野菜を栽培したりクッキングなどを行いました。

アレルギーのある園児が 1 才児クラスに 2 名、入園しました。調理員、担任、園長、主任で連携をとり事故のないように対応しました。

運営状況について

一時預かり事業は問い合わせや利用者も増え、日によっては受け入れ人数を超える申し込みもありました。3 月までの利用者は延べ 366 名でした。

子育て支援室「つぼみ組」は、口コミやホームページで見た。と、遠くから来てくれたりして利用者が増えました。3 月末までの利用者は延べ 2,091 名でした。

支援室の利用者が入園にもつながっています。

園庭で鬼ごっこをしている時、つまずいてマンホールの外側のコンクリートに顔をぶつけてしまい、目の横を5針縫うケガをした子（4才児）がいました。園庭が道路側に傾斜している為、雨が降ると園庭の土が流れて行ってしまうので、以前に比べて園庭の排水のマンホールが浮き上がってしまっています。対策を考えていますが、なかなか整備ができませんでした。今後、対策を考え整備を進めたいと思います。5月より調理員1名（非常勤、週5日、9:00～15:00）を採用しました。常勤保育士1名が5月に急遽、退職しました。

その他

4月に発達が気になる園児が、病院の発達相談で「軽度の知的障害」と診断されて5月に療育手帳が交付されました。また、11月からは4才児が加配（障害児担当保育士補助金）の対象となりました。

加配対象にはなっていませんが集団生活で発達が気になる園児は、個別に面談を行い、園だけでなく市内の発達相談、指導を行ってくれる施設へとつなげました。

就学を見据え、年長児の発達が気になる子（2名）に対しては、個別に面談を行い、保育園で配慮しているところなどを保護者に伝え、市の就学相談に行ってもらうように勧めました。

広いホールを活用して荒馬座公演やコンサートを行ったり年間で取り組んだリズムを保護者の方に一緒に体験してもらうリズム参加を行い、好評でした。

2月後半から「新型コロナウイルス感染症」が全国的に流行した為、園内の消毒や子ども達の手洗い、うがいの習慣づけをもう一度、徹底して感染予防につとめました。